

子どもの本から育つ子どもの未来

# 読むの木講座

みんなで語る時間 2011年10月からスタート

子どもの本や夢ってなに？を一緒に考える時間を小さなカフェに用意しました。テーマは『ブックバード日本版』のコンテンツやマイティブックから発信する子どもと本、そして環境などさまざまです。参加者のみなさんには、本選びの参考、国際理解、創作活動といった知識を共有するだけでなく、子どもたちの未来へのビジョンも語ってみたいと思います。子どもの本を軸にした交流が広がることを願って講座を開始、話が弾むように、ル・カフェの美味しいお茶とお食事を用意しています。ぜひ、お気軽にご参加ください。

定員●20名

開催●2011年10月から月2回程度

時間●講座 PM7:00～PM8:30 / 交流会（食事付） PM8:30～PM10:00

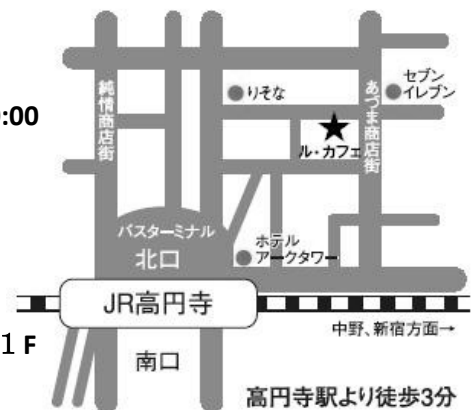
参加費●第1回 4000円（講座のみは3000円：お茶付）

第2、3、4回 3500円（講座のみは2000円：お茶付）

会場●高円寺 LU CAFÉ（ル・カフェ）—TEL：03-3338-5150

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北 2-10-7 ヴィラグリーン 1F

\*お店の方への講座内容のお問い合わせはご遠慮ください。



お申込み● [bookbird@mightybook.net](mailto:bookbird@mightybook.net) 宛て事前にお申し込みください。

—一件名に「読むの木講座申込」と記入いただき、希望講座名（講座のみはその旨）、参加者のお名前、年齢、住所、電話番号を記入の上、上記アドレスにメールでお送りください。

—ご質問もこちらのメールで受け付けています。件名に「読むの木講座質問」とご記入ください。

—参加費は当日のお支払です。また、前日のキャンセル、当日欠席は後日参加費をお振込みいただきます。

—各講座とも定員に達した時点で申込みを締め切らせていただきます。

—会場が小スペースなため、お子様連れのご参加はご遠慮ください。

主催●株式会社マイティブック 東京都渋谷区渋谷 1-19-8 岡田ビル 2階

TEL:03-5485-1118 FAX:03-5485-7545 <http://www.bookbird.jp> <http://www.mightybook.net>

# 10月

<ギャラリー>

10月2日から31日まで『ブックバード日本版』表紙展をル・カフェ店内の壁ギャラリーで開催（通常のカフェ営業です）



●第1回：10月26日（水）

今大人気のイタリア人イラストレーター

フィリップ・ジョルダーノさんが絵を描くことが大好きな理由



「ボローニャ SM 賞」第1回受賞者として注目を集める、イタリアの若手イラストレーター フィリップ・ジョルダーノさん。彼はイラストレーターとして生きていくことは簡単なことではないけれど、絵を描くこと、表現することは最も自分らしいことであり、絵を描くことが自分にとって最高の喜びであると言います。そして、さらに新しい何かを探するため大好きな日本に「ボローニャ SM 賞」の賞金でやって来ました。そのフィリップさんをゲストに迎え、子ども時代のことや絵に興味を持ったきっかけ、そして日本の感想など、通訳のガブリエレさんと一緒に楽しく語っていただきます。

\*この回は、講師と通訳の2名なので参加費が4000円です。

◆ゲスト：フィリップ・ジョルダーノさん

<プロフィール>イタリア生まれの31歳。絵本画家を目指す人にとって登竜門となっているボローニャ国際絵本原画展で2010年に新設された若手画家を対象とした「ボローニャ SM 賞」の第1回受賞者。板橋区立美術館をはじめ日本各地で開催する「2011 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」の特別展として新作絵本「かぐや姫」の原画が巡回し、日本のファンが増加中の世界的イラストレーター。



◆ゲスト：ガブリエレ・レバリアーティさん（通訳）



<プロフィール> イタリア生まれ。2004年トリノ大学卒業。卒業後はマーケティングや商品開発に携わっていたが、小説家としての活動を開始し2009年に日本に来日する。現在は中央大学大学院の文学研究科に在籍。日本語が堪能なため、フィリップさんの通訳として、名コンビぶりを発揮する。

# 11月

●第2回：11月10日（木）

## 「アリエッティは何語を話すのでしょうか？」

田中さんから『ブックバード日本版』No.6に、メアリー・ノートンの『床下の小人たち』と宮崎駿企画・脚本の「借りぐらしのアリエッティ」の関係について述べた論文を寄せていただきました。この論文をベースに、児童書から生まれたアニメーションについてのイメージの変化などについて、参加者の皆さんと率直な意見交換をしたいと思います。と言っても、一方的なレクチャーは一切なし。テーマを広げ「子ども向け」と言われている「本」の魅力や、メディアが子どもに与える影響など、子どもの本や現場に通じるみなさんとワイワイと交流を図ることを目指します。

◆ゲスト：田中美保子さん

<プロフィール> 大学で教鞭をとりながら、子どもの本の翻訳や紹介・研究をしている。絵本からYA物まで興味の範囲は広いが、とくに関心が高いのは、第二次大戦後にイギリスで書かれた児童文学（特にファンタジー）。それが日本ではどのように翻訳され受け容れられたか（もしくは拒絶されたか）ということ。比較文化・文学として「翻訳」について考え、いろいろな発見を楽しんでいる。



●第3回：11月17日（木）

## 「なぜ、世界の子どもが日本のマンガを読むのか？」

マンガの原作者を目指し『ゴルゴ13』の原作などで著名な小池一夫さんに師事、数々の作品を手がけ、マンガの中の児童文学性について関心を持つ上野さんをゲストに迎え、マンガと児童文学の骨組みや違いについて考えます。世界中でマンガが子どもの本として存在感を増す中、現在執筆を進めている児童向け女子サッカーの本などを通じて感じる子どもの本としての魅力を両サイドの目線から語っていただきます。

◆ゲスト：上野直彦さん

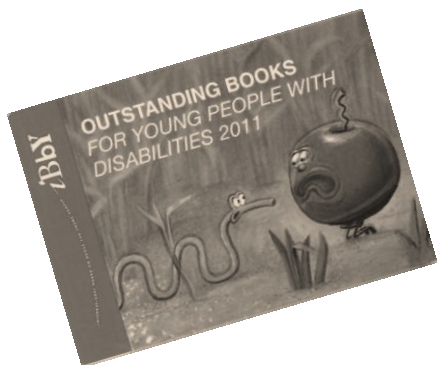
<プロフィール> マンガ原作者・脚本家。コンビニコミックも多数出版。またサッカー好きで、澤選手や川澄選手が在籍するINAC神戸レオネッサで3年間スカウティング(戦術分析)を担当するなど多才。チャリティー電子書籍『サッカーのチカラ』(共著/東邦出版)に寄稿。<http://hon-to.jp/contents/StaticPage.do?html=soccer>



# 12月

●第4回：12月14日（水）

## それが聞きたい！「バリアフリー図書が必要な理由」

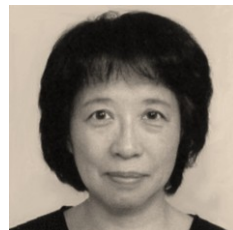


国際児童図書評議会（IBBY）のプロジェクトのひとつとして、ノルウェーのハウグ養護学校内にある IBBY 障害児図書資料センターに、世界中から障害を抱える子どものためのバリアフリー図書児童書が集められています。そしてその中から、特に優れた図書を選出し、2年に一度、推薦図書リストを作成しボローニャ国際ブックフェアで紹介された後、希望する各国で巡回展示が行われます。日本でこのプロジェクトの実行委員を務める攪上さんに、バリアフリー図書の必要性を伺いながら、その心豊かな世界を広げ、次世代につなげていきたいと思ひます。

2011年のIBBY推薦図書は、2012年から「世界のバリアフリー絵本展」として国内を巡回予定です。

◆ゲスト：攪上久子さん

<プロフィール> 臨床発達心理士、実践女子大学非常勤講師。日本国際児童図書評議会（IBBY）でさまざまなバリアフリー図書プロジェクトを立ち上げ、2003年より世界のバリアフリー絵本展実行委員長、東日本大震災被災児支援でもバリアフリー図書を届けるプロジェクトの責任者を務めている。IBBY 前理事。IBBY 機関誌『Bookbird』 Vol.49No3（『ブックバード日本版』は No.7 2011年12月15日発売）に寄稿「バリアフリー図書日本巡回展について」が掲載される。



●第5回：担当の松井紀美子、全力で現在企画中！

この講座は、アカデミックな議論を目的としたものではありません。普段の生活の中で子どもの本について感じることや、ゲストに聞いてみたいことなどをお茶や食事を交えながら楽しく語り合う交流の場です。子どもの本とテーマに興味のある方なら誰でも参加できます。また、取り扱って欲しいテーマなど、講座へのお問い合わせは下記メールアドレスまでお願いします。

お問い合わせ ● [bookbird@mightybook.net](mailto:bookbird@mightybook.net) （件名に「読むの木講座質問」とご記入下さい）

株式会社マイティブック 東京都渋谷区渋谷 1-19-8 岡田ビル 2階

TEL:03-5485-1118 FAX:03-5485-7545 <http://www.bookbird.jp> <http://www.mightybook.net>

『ブックバード日本版』のお求めは <http://www.bookbird.jp> をご覧ください。

**Bookbird**  
A JOURNAL OF INTERNATIONAL CHILDREN'S LITERATURE  
ブックバード日本版